

令和7年度 自己評価書・学校関係評価書

令和8年 3月10日  
真庭市立落合こども園

1. 落合こども園の教育保育目標

〈保育理念〉

生きる力に向けて園児の望ましい育ちを支える

〈教育目標〉

心豊かで、人と楽しくかかわりながら、主体的にたくましく生活する子どもの育成

〈目指すこども像〉

- 元気な子ども
- 考える子ども
- 仲良くする子ども
- 感性豊かな子ども

〈目指すこども園像〉

- 安心できる教育保育の環境の中で自己発揮し、園児が行きたいこども園
- 保護者や地域に信頼され、家庭や地域が通わせたいこども園
- 園児に丁寧にかかわりながら楽しく保育できる環境の中、保育教諭が働きたいこども園

2. 本年度の重点目標（課題）

今年度のテーマ

「安心して自己発揮できる子どもをめざして」

～子どもの思いを見逃さない保育者の援助を探る～

- 心豊かで、人とかかわりながら、主体的にたくましく生活する園児の育成
  - ・保育教諭との信頼関係を基に、安心して自分の気持ちを表すことができるようにする。
  - ・子どもの興味関心に沿った環境構成を行い、夢中になって遊び込めるようにする。
- 人とかかわることを楽しむ子どもの育成
  - ・友達と一緒にのびのびと活動し、身近な人や環境に意欲的に関わって遊べるようにする。
  - ・異年齢交流を通して、互いに親しみを感じ学び合い、憧れや思いやりの心を育てる。
- 小学校への接続と学びの連続性について
  - ・児童と園児の交流や職員間の連携を通して、お互いをさらに知り段差のない関係にする。
- 信頼されるこども園づくり
  - ・地域との交流を大切にしながら、園児が様々な学びができるようにする。
- 人権意識の向上
  - ・園児の人権を守り、一人一人を大切にされた温かい保育を進める。
- 安心安全なこども園づくり
  - ・危機管理意識を持ち、安全指導の充実を行う。

### 3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	学校評議員評価
教育保育課程・指導計画	各学年のリーダーを中心に話し合い計画を立てている。年齢に応じた保育内容であり保育が進めやすかった。毎月振り返りを行い翌月の保育に生かした。	3	4
行事	様々な行事を通して何を育てたいかをしっかり会議で話し合い進めた。職員は大変な面もあったが、協力し助け合いながらできていた。	3	4
組織・運営	10クラスで職員33名と多い為、報告連絡相談を徹底した。朝礼と終礼を毎日行いコドモンに入力したことで情報共有が密にできた。段取り良く殆どが進んだが、	3	4
学級経営	各学年でも話し合いが良くできた。担任の考えや個性も尊重しながら、保育内容に差が出ないようにした。保護者からの信頼を得られた。	3	4
特別支援教育	外部関係機関と連携しながら進めた。就学に向け小学校連携も良くできた。支援が必要な園児や保護者に対して、相談や提案をするなど連携することができた。	3	4
安全管理・保健指導	毎月安全点検をし、安全管理に努めた。不審者避難訓練・災害訓練は園児参加で行い、地域防災訓練に5歳児が参加するなど防災意識を高めた。看護師が保健だよりを発行した。	4	4
研修（資質向上）	園外研修は、職員全員が行くことが出来にくかった。研修の時間の確保が課題である。園内研修は、全員参加できることもあった。様々な内容での研修ができた。	3	4
情報提供・保護者・地域との連携	保護者へはコドモンで遊びや行事の様子を毎日写真配信した。ホームページは月に一回は掲載した。食育だよりや園だよりは、分かりやすくしながら子育てのヒントも入れた。	3	3
小学校との接続・連携	連絡を密にしながら、計画的に交流を行った。園児も入学への期待感・安心感も高まっている。互いに参観しあったり気軽に遊びに行ったりなど段差の少ない交流が出来た。	3	4
子育て支援	園開放を実施しているが、ほぼ入園しているため参加者は少ない。保護者とは何気ない会話を大切にしながら話しやすい環境を作っている。保健師とも連絡を取り合っている。	3	3
食育の推進（給食）	畑作り・収穫・調理体験を年齢に合わせて行った。栄養士による食育指導も計画的に年齢別に行った。食べ物への関心や感謝に気持ちがもてるように食育活動を行った。	3	4
食事の提供（調理）	アレルギーの除去、異物混入、離乳食などの対応では、安心安全な調理の徹底をし、事故はなかった。また、支援の必要な園児への盛り付けの工夫等の細やかな対応を行った。	4	4

#### 4. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

今年度のテーマを決め、チーム落合として全職員で、一人一人の園児を大切にしたい温かい保育を心がけ「安心して自己発揮できる子どもをめざして」教育・保育を進めている。本年度の重点目標にある「人権意識の向上」については、園児が大切な人であり園児の最善の利益を考えるとの共通理解のもと、様々な角度から職員研修を行ったり職員同士で話し合いをしたりしている。不適切な保育にならないために、また、包括的性教育を意識した保育を進めるために今後も研修を継続していきたい。研修は、職員が主体で進められるように今後していきたい。保育の環境や内容については、2名の大学の先生にも保育を4回見ていただき、指導を受けた。来年度も継続する予定である。園児の姿を受け止め園児の興味関心に沿った環境構成を行うことや職員の園児との関わり方や保育を楽しむこと等、多くの学びがあった。その中で、保育教諭自身が保育への素直な振り返りができ、更に向上していこうとする意欲がみられている。「小学校への接続と学びの連続性」については、職員同士の交流を増やしたり、計画以外でも小学校へ行ったりなど交流を広げることができた。園からの発信も続け、教育保育の理解につなげていきたい。園児は入学を楽しみにしている、小学生も入学を待ってくれている。今後も話し合いをし、計画を立てていく。

保護者アンケートでは、園に対しては高評価であったが、自分の子育てについては、不安のある保護者が少し見られた。意見の中には、日頃の保育への感謝が多かった。園の雰囲気の良いことや職員間の連携、実際にあった災害時の対応の仕方など、保育や運営について認めて下さり良い評価をいただいた。コドモンの連絡の仕方などでは、分かりにくいや連絡が多いなどのマイナスな意見もあれば、その反対の意見もあった。今後は整理していき、保護者の理解が得られるように対応していく必要があると考える。園評議員の方からは、行事へ参加した感想から園の温かな空気感や園児に対する職員の思いや考え方、保育の進め方に素晴らしいさを感じるとの意見をいただいた。今後も職員全員の共通理解をおこない、園児が通いたい、保護者が預けたい園になるように、園児一人一人を大切にしたい園児中心の保育を実践していきたい。

#### 5. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- ・保護者アンケートの意見の中に、一名ずつではあるが、送迎時の保育教諭の対応への指摘と子供同士の喧嘩からの怪我についての心配があった。園児の保育や子ども支援はもちろんであるが、保護者支援もしっかりしていきたいと考えている。保育教諭自身が行動を振り返り、年度当初決めていたお迎え時には挨拶にプラスワンでの声かけをしていくよう再確認した。また、安全に活動できるように人的、物的環境についても話し合いを引き続き行いたい。園児同士のトラブルについては、学びの部分もあると考えるので、保育の中で繰り返し援助していきたい。

- ・コドモンでドキュメンテーションの発信を毎日行い、保護者に保育の内容や様子を理解してもらえよう心がけた。保護者に高評価であったので今後も継続していく。また、わかりやすい文章や必要に応じて発信ができるよう、保護者や職員の意見を取り入れながら、今後もより良いものにしていきたいと思う。

- ・園評議員の方には、保育を2回、行事を3回観ていただき、クラス運営や行事の在り方、園児の成長の姿を見て評価して頂いた。園の雰囲気が温かいと感じることや職員と園児の関わり方、行事の進め方が良く、落合こども園の園児は幸せだと思うとの意見をいただいた。

- ・職員の自己評価は、前年度より評価が上がっていた。それぞれの職員が、働きやすい環境や相手を思いやる気持ちを意識できていたように感じる。園児の人権を大切にできるように研修をしているが、来年度も一人一人の園児を受け止め、安心して自己発揮できる園児を目指し、保育内容を向上させる職員連携ができるよう今後も取り組んでいきたい。

- ・職員同士で保育について話し合う時間や思うように研修の時間が取れない、また、保育教諭が保育研究をする時間がないことが課題である。行事や事務の軽減ができるよう見直したりノンコンタクトタイムを取り入れたりし、少しでも時間を作っていきたい。職員同士が互いの思いを知り気持ち良く協力し合えるような環境を作っていきたい。そのことが保育の向上に繋がっていくと考える

- ・保護者との信頼関係を築きながら、幼児期の教育・保育を進め保護者や地域の方の理解と協力が得られるように努力していきたい。

学校評議員・園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である